

6. プロジェクトの活動報告

<p>◆プロジェクトにおける活動内容と目標</p>
<p><活動内容> オープンキャンパス参加者を対象に、AI の基礎・Chat GPT 入門という2つの学習トラックを通じて、AI の基礎的な知識や、正しい使い方などについて教育しました。 講義参加者には、AI に関する驚愕の事実を知ることや、実際にプロンプトを入力することにより、楽しみながら学んでもらいました。加えて、AI と Chat GPT の問題点についても触れ、メディア・リテラシー教育と絡めました。そして生成 AI のクリエイティブな側面を生かしながら、そのネガティブな側面についてもしっかりと知ることのできる教育をしました。 参加者に触れ合っていたためロボットのレンタルに加え、ビラの作成、経費の管理、メンバーのマネジメントを行いました。</p> <p><目標> AI リテラシー格差をなくすため、講義を受けた人々が AI に興味を持ち、実際に Chat GPT を利用することで彼らの生産性を上げることを主な目的としていました。 加えて、ChatGPT を使い、大学受験にも活かせることを高校生に教えることで、勉強の効率と大学合格率をあげて、中京大学の受験に受かる学生を増やすことも目的としていました。 また、このプロジェクト自体に興味を持ってもらい、大学祭で講義を聞いた高校生が、一年後または三年後に中京大学の AI 未来創造プロジェクトに参加したいと思うほどのインパクトを残すことも目的としていました。</p>
<p>◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果</p>
<p><中間報告時に抱えていた課題> 消極的なメンバーがいました。</p> <p><対応結果> 積極的になってくれました。</p>
<p>◆プロジェクトの目標達成状況（活動内容等を具体的に記入してください）</p>

<達成状況>

中京大学のオープンキャンパスで行われた AI 搭載ロボットとのワークショップ、ChatGPT に関するセミナーでは、3日間で約1000名近く参加者を集めることができました。また、参加者からは「セミナーの内容が面白かったです！僕も大学生になったらプロジェクトに参加させてください！」や「ピラ見てきました！」、「ロボットめっちゃ可愛かったです！」など多くの言葉を寄せていただきました。また、高校生だけでなく、保護者の方にも参加していただき、「AI リテラシー格差をなくしたい」というプロジェクトの目標を達成することができました。チャレンジ奨学金を利用してレンタルした LAVOT、Aibo は高校生を集客するにあたり大いに活躍し、ワークショップの満足度を大幅にあげることができました。うまくいかないことも多くありましたが、学生支援課や教授、メンバーの助けもあり、プロジェクトを運営することができました。

自己評価による達成度： 80%

◆改善点、やり残したこと

オープンキャンパスでしかこの講義をできなかったため、より積極的に講義の機会を増やすべきでした。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか

ロボットの不具合や悪天候といった予期せぬトラブルが起きても、その場でできる対策を仲間と考え実行することで、計画通りに進まなくても、柔軟な対応力と適切なチームマネジメントを行えば成果が出せることに気づきました。

◆今後チャレンジしていきたいこと

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

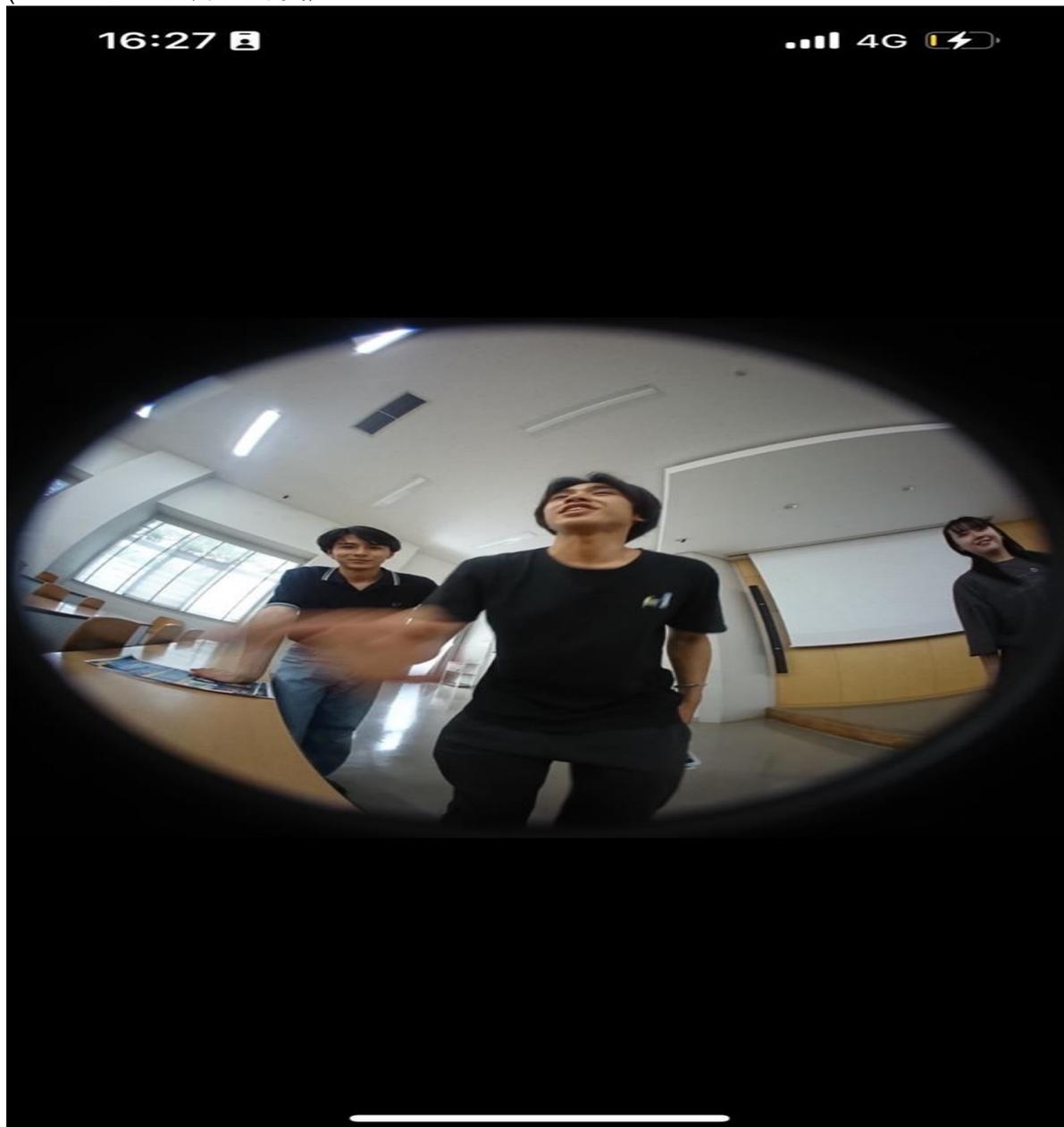
卒業後はこの経験を活かして、AIを活用したビジネスの分野で、技術と人をつなぐ架け橋となるような取り組みに挑戦したいです。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。



(aibo がとってくれた写真)



7. 参加者名簿 (足りない場合は各自で列を足してください)